

# 金属部品のアコオ機工 新塗装棟が竣工

## 作業環境改善、品質も向上

金属部品メーカー、アコオ機工（本社・兵庫県赤穂市、社長・間鍋雄樹氏）が建設を進

めていた新塗装棟（敷地面積1200平方メートル）がこのほど竣工した。本社の建屋としては工場棟と旧塗装棟（同750平方メートル）の2棟を有していたが、旧塗装棟を建替えたものの、総投資額は約3億円。

「旧塗装棟は竣工してから約15年が経過し、手狭で作業環境の点で問題があった。塗装ブースは大物・小物の各1機を導入した。今回、塗装方法も新たに上から下に塗料を落とす『プッシュプル方式』に変えたため、より高品質になった」（四井大介専務）。

大物塗装ブースは主に車輛部品に、小物は輸送機関係で使用する予定。小物ブースは乾燥炉付きで、焼き付け塗装も可能となった。

今回の新塗装棟工事ではものづくり補助金を活用（1千万円）した。

主要製品はAL製新幹線部品、AL製プラント関係ギヤカバ、SUS製水車、SUS製プラント関連、真鍮製プラント部品など。製造設備では各種プレスや車両用スポットロボットなどをそろえている。

アコオ機工は198



アコオ機工、新塗装棟外観（写真左）と小物塗装ブース

0年の創業で、創業当時より鉄道車両部品製造に携わってきた。マテリアルハンドリング機器・船舶部品、プラント設備、産業機器部品などを製造する金属製品部品メーカー。

特にアルミの加工技術力には定評があり、設計・加工から塗装まで一貫したアルミ加工が可能。新幹線の部品製造では1990年の300系から手掛け、定評がある。製造拠点では上郡工場（兵庫県赤穂郡上郡町）も持つ。20年5月期売上高は13億円。従業員は83人。

